

## 県立大卒業の武藤さん(北海道出身)

# 羊牧場 秋田の“開拓者”に

県立大を今春卒業した若者が、秋田市内に羊の牧場を開く準備を進めている。現在は大仙市の農場で飼育のノウハウを学びながら、好条件の土地を探す日々。将来的には200〜300頭規模で経営し、県内有数の羊農家になることを夢見ている。

「まだ羊の飼育が盛んではない所で、牧場をやってみたくて家業を継ぐことを考えています」。作業着姿で思いを語るのは秋田市河辺三内の武藤達未さん(22)。実家は北海道の羊農家だ。県立大を卒業後、大仙市の「ハッピー農場」で働き、羊やジャンボウサギ、比内地鶏の飼育方法を学んでいる。

2015年に県立大生物資源科学部に入学したが、秋田との初めての接点だった。微生物や食品衛生について学ぶ傍ら、4年時には県産羊毛に親しむ「つむぎサークル」を立ち上げ、毛染めや縫いぐるみ作りに取り組んだ。

幼少期から羊農家になろうと、畜産技術協会(東京)によると、県内の羊飼育頭数は17年時点で203頭。東北では5番目で、宮城(156頭)に次いで少ない。農家数は9戸にとどまり、1桁は東北で唯一。羊の飼育は盛んといえないのが現状だ。

それでも県内では今年4月、健康志向などで羊肉の人氣が高まっていることを背景に、羊農家ら9人が「県細羊生産組合」を設立。飼育技術

を高め、頭数の増加を図ろうとしている。武藤さんもメンバーに名を連ねる。

京都府出身の父親は道内の大学を卒業後、2畝の土地で羊35頭の飼育を始め、現在は

## 秋田市内 準備進め、修業の日々



県内で牧場を開き、羊を飼う夢を語る武藤さん。大仙市のハッピー農場

羊35頭の飼育を始め、現在は

700頭以上を飼育する大規模牧場にした。武藤さんも父親の「開拓者精神」を受け継ぎ、小さな土地で牧場を始めたいと考えている。

今はハッピー農場で経験を積み、21年春に牧場を開くことが目標だ。秋田市のNPO法人「住まい安心サポート秋田」の協力を得て、同市河辺三内の空き家を借りて暮らし、休耕田に牧場を開く準備を進める。初期費用は羊の飼料や育てるためのビニールハウスの購入費など約500万円と見込んでいる。

武藤さんは「小さいころから、羊の水やりや餌やりをしながら育った。思い入れは特別だ。いずれは飼育頭数を増やし、秋田の羊を国内外にアピールしたい」と語った。

武藤さんは牧場を開いた後も、事業拡大に向けて用地を探すといい、住まい安心サポート秋田を通して情報を募っている。情報提供は、住まい安心サポート秋田事務局 0188・88388・4720

(村田悠輔)